

実務経験のある教員等による授業科目の事業計画書（シラバス）

★この科目は実務経験のある教員による授業科目です

分野	科目	単位数	時間数	履修年次	テスト時間
専門分野 基礎看護学	37 看護学原論	1	30	1年 前期	1 (45分)

科目担当者: 看護師★

学習目標	1. 看護の本質を理解し看護の概念を理解する。 2. 看護の対象としての人間を身体的・精神的・社会的統合一体として理解する。 3. 人間にとっての健康の意義について理解する。 4. 保健医療福祉チームにおける看護の役割を理解し看護活動のあり方を理解する。 5. 看護の歴史と変遷を通して、現在の看護の位置づけと諸問題を理解する。				
回	教育内容			講義方法	
1回 2回	1. 看護とは 1) 看護の本質 (1) 看護の変遷 (2) 看護の定義 2) 看護の概念 (1) 看護を構成する主要概念 人間、健康、環境(社会)、看護 3) 看護の役割と機能 (1) 看護ケア (2) 看護実践と質の保証 (3) 看護理論家の看護概念			アクティブ ラーニング 講義 グループワ ーク	
3回 4回	2. 看護の対象理解 1) 人間のこことからだ 人間の欲求(ニード) 2) 個人の理解 (1) 生涯発達ごとの個人の理解 (2) 健康状態ごとの個人の理解 (3) 生活と療養の場ごとの個人の理解 3) 集団の理解 (1) 家族という集団 (2) 地域社会という集団			講義	
5回 6回	3. 人間にとっての健康 1) 健康とは (1) 健康の定義 (2) 日本の健康状態、健康意識 2) ライスサイクルと健康			講義	
7回 8回	4. 看護の役割 1) 職業としての看護 (1) 看護職の資格・養成制度・就業状況 (2) 継続教育とキャリア開発 (3) 看護職の養成制度の未来と課題			講義 グループワ ーク	
9回 10回	5. 看護における倫理 1) 職業倫理と看護倫理 2) 看護の対象者の意思決定と守秘義務 3) 専門職の倫理規定 倫理綱領 4) 倫理的ジレンマ			講義 グループワ ーク	

11 回	6. チーム医療における看護の提供のしくみ 1) サービスとしての看護 2) 看護提供の場とチーム医療 3) 看護をめぐる制度 4) 医療安全と医療の質の保証	講義 グループワーク
12 回 13 回	7. 看護の実践 1) 看護技術の基本原則 2) 看護技術の特徴 3) 看護技術の範囲 4) 看護技術を適切に実践するための要素	講義 グループワーク
14 回	8. 広がる看護活動領域 1) 国際化と看護 2) 災害時の看護	講義 グループワーク
15 回	まとめ/終講試験	
評価方法	筆記試験 70% レポート 20% グループ発表 10%	
テキスト	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学【1】 看護学概論 医学書院 系統看護学講座 別巻 看護倫理 医学書院	
参考文献	看護がみえる Vol.5 対象の理解 I メディックメディア 国民衛生の動向 2024/2025 厚生統計協会	

自己学習時間

講義以外の学習時間	15 時間	事前・事後学習内容	レポート・発表資料に取り組む
-----------	-------	-----------	----------------

★この科目は実務経験のある教員による授業科目です

分野	科目	単位数	時間数	履修年次	テスト時間
専門分野 基礎看護学	39 基礎看護学方法論Ⅱ (看護の共通基本技術Ⅱ)	1	30	1年 前期	1 (45分)

科目担当者: 看護師★

学習目標	1. 感染予防および感染予防における看護師の役割を理解する。 2. 感染予防に必要な基礎的看護技術を習得する。 3. 看護活動における基本的技術を理解する。				
回	教育内容				講義方法
1回	1. 感染とその予防の基礎知識 1) 感染と感染症 2) 感染成立の条件 3) 感染予防 4) 院内感染の成立				講義
2回 3回	2. 標準予防策 1) 標準予防策の基礎知識 2) 対策の実際 (1) 手指衛生 (2) 個人防護具 (PPE) (3) 患者ケアに使用した器具 (4) 環境対策 (5) リネン (6) 鋭利なものの取り扱い (7) 患者の蘇生など救急時の対応 (8) 患者配置 (9) 呼吸器衛生／咳エチケット (10) その他				講義 演習 ＊技術チェック
4回	3. 感染経路別予防策 1) 感染経路別予防策の基礎知識 2) 接触予防策 3) 飛沫予防策 4) 空気予防策				講義
5回	4. 洗浄・消毒・滅菌 1) 洗浄・消毒・滅菌の基礎知識 2) 洗浄 3) 消毒と滅菌				講義
6回 7回	5. 無菌操作 1) 無菌操作の基本知識 2) 対策の実際				講義 演習
8回	6. 針刺し防止策 1) 針刺し防止の基礎知識 2) 対策の実際				講義
9回	7. 医療施設における感染管理 1) 感染管理のための組織と業務 2) 感染症発生時の対応				講義 演習
10回	8. 安全確保の基礎知識 1) 誤薬防止				講義

	2) チューブ類の事故防止 3) 患者誤認防止	
11 回	9. 転倒・転落防止 1) 転倒・転落防止の基礎知識 2) 転倒・転落防止の実際	講義
12 回	10. 薬剤・放射線暴露の防止 1) 抗がん薬暴露の防止 2) 放射線暴露の防止	講義
13 回	11. 学習支援 1) 学習支援の対象者と看護の役割 2) 学習の基礎知識 3) 学習支援の基礎知識	講義
14 回	12. 学習支援の技術 1) 学習支援の進め方 2) 学習支援の方法 3) 学習支援の実際	講義
15 回	まとめ／終講試験／技術チェック	
評価方法	筆記試験 60% レポート（課題）他 40%	
テキスト	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学【2】医学書院	
参考文献	看護がみえる Vol.1 基礎看護技術 メディックメディア	

自己学習時間

講義以外の学習時間	15 時間	事前・事後学習内容	DVD 学習、技術演習
-----------	-------	-----------	-------------

★この科目は実務経験のある教員による授業科目です

分野	科目	単位数	時間数	履修年次	テスト時間
専門分野 基礎看護学	40 基礎看護学方法論Ⅲ (ヘルスアセスメント)	1	30	1 年 前期	1 (45 分)

科目担当者： 看護師★

学習目標	1. 全身状態を系統的に把握するためのヘルスアセスメントの意義・目的およびその方法について理解する。 2. バイタルサインの基礎的知識を理解し、その測定技術を習得する。 3. フィジカルアセスメントに必要な看護技術を習得する。 4. フィジカルアセスメントで収集した情報から必要な看護を導き出すことができる。	
回数	教育内容	講義方法
1 回	1. 看護におけるヘルスアセスメントの考え方 1) ヘルスアセスメントとは 2) アセスメントのプロセス	講義
2 回	2. 健康歴とセルフケア能力のアセスメント 1) 問診の技術 2) ヘルスストーリー	講義
3 回 4 回	3. 全体の概観 1) フィジカルアセスメントに必要な技術 2) 全身状態・全体印象の把握 3) バイタルサインの観察とアセスメント 4) 計測	講義
5 回 6 回	4. フィジカルアセスメントに必要な技術 1) バイタルサイン 2) 計測 3) パルスオキシメーター	演習 ＊技術チェック
7 回	5. 系統別フィジカルアセスメント 1) フィジカルアセスメントの特徴 2) 呼吸器	講義・演習
8 回	3) 循環器	講義・演習
9 回	4) 乳房、腋窩 5) 腹部（消化器）	講義・演習
10 回	6) 筋・骨格 7) 神経系	講義・演習
11 回	8) 頭頸部と感覚器 9) 外皮系	講義・演習
12～13 回	6. 心理・社会状態のアセスメント	講義
14 回	技術 バイタルサイン	技術チェック
15 回	まとめ／終講試験	
評価方法	筆記試験 60％ 課題 10％ 技術チェック 30％	
教科書	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学【2】 基礎看護技術Ⅰ 医学書院 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学【3】 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 看護がみえる vol.3 フィジカルアセスメント メディックメディア	
備考		

自己学習時間

講義以外の学習時間	15 時間	事前・事後学習内容	DVD 学習、技術演習
-----------	-------	-----------	-------------

★この科目は実務経験のある教員による授業科目です

分野	科目	単位数	時間数	履修年次	テスト時間
専門分野 基礎看護学	41 基礎看護学方法論Ⅳ (生活援助技術Ⅰ)	1	30	1年 前期	1 (45分)

科目担当者： 看護師★

学習目標	1. 食事の意義、意味を理解し、食生活を整えるために必要な看護技術を習得する。 2. 排泄の意義を理解し、排泄機能障害・排泄行動の自立度に応じた看護技術を習得する。	
回数	教育内容	講義方法
1回	1. 食事・排泄の意義、メカニズム	講義
2回	2. 食事援助の基礎知識 1) 栄養状態及び摂食能力、食欲や食に対する認識のアセスメント 2) 医療施設で提供される食事の種類と形態	講義
3回	3. 食事摂取の介助 1) 援助の基礎知識	講義
4回 5回	2) 援助の実際	演習
6回	4. 非経口的栄養摂取の援助 1) 経管栄養法 2) 中心静脈栄養法	講義
7回	5. 排泄に関連したアセスメント 1) 患者の状態に応じた援助の決定 2) 排尿、排便のアセスメント 3) 移動動作のアセスメント 4) 心理・社会的状態のアセスメント	講義
8回	6. 自然排泄の介助の基礎知識 1) トイレにおける排泄介助 2) 床上排泄援助 3) おむつによる排泄援助 4) 陰部洗浄	講義
9回 10回	7. 自然排泄の介助の実際	演習
11回	8. 排泄を促す援助の基礎知識 1) 排尿、排便を促す援助の基礎知識 2) 一時的導尿 3) 浣腸 4) 摘便	講義
12回 13回	9. 排泄を促す援助の実際 1) 一時的導尿 2) グリセリン浣腸	演習
14回	3) 持続的導尿 4) 摘便	講義
15回	まとめ／終講試験	
評価方法	筆記試験 60% レポート 40%	
教科書	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学【3】 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 看護がみえる vol.1 基礎看護技術 メディックメディア 看護がみえる vol.2 臨床看護技術 メディックメディア	
備考		

自己学習時間

講義以外の学習時間	15 時間	事前・事後学習内容	DVD 学習、技術演習
-----------	-------	-----------	-------------

★この科目は実務経験のある教員による授業科目です

分野	科目	単位数	時間数	履修年次	テスト時間
専門分野 基礎看護学	42 基礎看護学方法論Ⅴ (生活援助技術Ⅱ)	1	30	1 年 前期	1 (45 分)

科目担当者：看護師★

学習目標	1. 清潔および衣生活の意義を理解する。 2. 清潔援助の方法や衣生活の援助技術について習得する。	
回数	教育内容	方法と留意点
1 回	1. 清潔の意義 2. 衣生活の基礎知識 1) 衣生活の意義 2) 体温調節と衣服	講義
2 回	3. 衣生活の援助の実際 1) 病衣の選び方 2) 寝衣の交換	講義
3 回	4. 清潔援助の基礎知識 1) 清潔援助の効果 2) 患者の状態に応じた援助の決定 5. 清潔を整える看護技術 1) 入浴・シャワー浴	講義
4 回	2) 全身清拭 基礎知識	講義
5～6 回	3) 全身清拭・寝衣交換の実際	演習
7 回	4) 洗髪の基礎知識 5) 口腔ケアの基礎知識	講義
8 回	6) 手浴、足浴の基礎知識	演習
9 回	7) 洗髪、口腔ケアの実際	講義
10～11 回	8) 洗髪、手浴、足浴の実際	演習
12 回	6. 整容	講義
13～14 回	技術チェック 清拭、寝衣交換	技術チェック
15 回	まとめ／終講試験	
評価方法	筆記試験 60% レポート 10% 技術チェック 30%	
教科書	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学【3】基礎看護技術Ⅱ 医学書院 看護がみえる vol.1 基礎看護技術 メディックメディア	
備考		

自己学習時間

講義以外の学習時間	15 時間	事前・事後学習内容	DVD 学習、技術演習
-----------	-------	-----------	-------------

★この科目は実務経験のある教員による授業科目です

分野	科目	単位	時間	履修年次	テスト時間
専門分野 基礎看護学	43 基礎看護学方法論Ⅵ (生活援助技術Ⅲ)	1 単位	30 時間	1 年 前期	1 (45 分)

科目担当者： 看護師★

学習目標	1. 活動と休息の意義と重要性を理解し、活動を促すおよび睡眠・休息を整えるために必要な看護技術を習得する。 2. 姿勢と看護場面における効率的動作について理解し、安全・安楽な体位の移動と変換の看護技術を習得する。 3. 環境の意義を理解し、療養環境を整えるための看護技術を習得する。	
回数	教育内容	講義方法
1 回	1. 姿勢と動作 1) 姿勢 2) 体位と肢位 ・体位 ・肢位	講義
2 回 3 回 4 回	2. 動作 3. ボディメカニックスの原則と実際 1) ボディメカニックスの原則と実際 2) ボディメカニックスにかかる基礎知識 (1) 姿勢や動作の安定性 (2) 看護に役立つ物理法則 (3) 作業域と作業姿勢 3) 良い姿勢・動作のためのボディメカニックス	講義 演習
5 回 6 回 7 回	4) 援助の基礎知識 ・車椅子を用いる場合の実際 ・ストレッチャーを用いる場合の援助の実際 ・移乗用リフトを用いる場合の援助の実際	講義 演習
8 回 9 回	4. 睡眠・休息の援助 1) 援助の基礎知識 2) 睡眠休息の援助	講義・アクティブラーニング
10 回 11 回	5. 環境調整技術 1) 環境調整の基礎知識 (1) 環境と看護 (2) 病床の環境	講義・アクティブラーニング
12 回 13 回 14 回	6. 療養調整援助の実際 1) 病床の環境整備 2) ベッドメイキング 3) 臥床患者のシーツ交換	講義 演習 技術チェック
15 回	まとめ／終講試験／技術チェック	
評価方法	筆記試験 60% レポート（課題）10% 技術チェック 30% 【シーツ交換】	
教科書	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学【3】基礎看護技術Ⅱ 医学書院 看護がみえる vol.1 基礎看護技術 メディックメディア	
備考		

自己学習時間

講義以外の学習時間	15 時間	事前・事後学習内容	DVD 学習、技術演習
-----------	-------	-----------	-------------

★この科目は実務経験のある教員による授業科目です

分野	科目	単位	時間	履修年次	テスト時間
専門分野 基礎看護学	44 基礎看護学方法論Ⅶ (治療・処置別看護)	1 単位	30 時間	1 年 後期	1 (45 分)

科目担当者： 看護師★

学習目標	1. 呼吸を整えるための援助方法について理解し、安全かつ正確な技術を習得する。 2. 創傷・褥瘡の予防的援助、治療的援助方法について理解し、皮膚・粘膜の保護に必要な技術を修得する。 3. 苦痛緩和・安楽確保のための援助について理解し、その援助技術を習得する。 4. 与薬の意義、目的、種類を理解し、与薬を受ける患者への安全な看護技術を習得する。	
回数	教育内容	講義方法
1 回 2 回 3 回 4 回	1. 呼吸・循環を整える技術 1) 気道の管理 (1) 気道管理の基礎知識 (2) 気道管理の援助の実際 ・安楽な呼吸法 ・体位ドレナージ ・咳嗽介助、ハフィング ・吸入 ・吸引 2) 酸素療法 3) 人工呼吸療法 4) 体温管理 5) 循環促進ケア	講義 演習
5 回 6 回 7 回	2. 創傷管理技術 1) 創傷管理の基礎知識 2) 創傷処置 (1) 術後一縫合創とドレーン創の処置 (2) 創洗浄と創保護 (3) テープによる皮膚障害 (4) 包帯法 3) 褥瘡予防	講義 演習
8 回 9 回 10 回 11 回 12 回 13 回 14 回	3. 与薬の技術 1) 与薬の基礎知識 (1) 薬物の基本的性質 (2) 看護師の役割 2) 経口与薬・口腔内与薬 (1) 援助の基礎知識 (2) 援助の実際 3) 吸入 (1) 援助の基礎知識 (2) 援助の実際	講義 演習

	4) 点眼・点入 (1) 援助の基礎知識 (2) 援助の実際 5) 点鼻 (1) 援助の基礎知識 (2) 援助の実際 6) 経皮的与薬 (1) 援助の基礎知識 (2) 援助の実際 7) 直腸内与薬 (1) 援助の基礎知識 (2) 援助の実際 8) 注射 (1) 援助の基礎知識 (2) 援助の実施法 ・皮下注射 ・皮内注射 ・筋肉内注射 ・静脈内注射 9) 輸血管理	
15 回	まとめ／終講試験	
評価方法	筆記試験 90% 課題学習 10%	
教科書	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学【3】 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 看護がみえる Vol.1 基礎看護技術 メディックメディア 看護がみえる vol.2 臨床看護技術 メディックメディア	
備考		

自己学習時間

講義以外の学習時間	15 時間	事前・事後学習内容	DVD 学習、技術演習
-----------	-------	-----------	-------------

★この科目は実務経験のある教員による授業科目です

分野	科目	単位	時間	履修年次	テスト時間
専門分野 基礎看護学	45 基礎看護学方法論Ⅷ (診療に伴う技術)	1 単位	30 時間	1 年 後期	1 (45 分)

科目担当者： 看護師★

学習目標	1. 検査・治療の意義・目的を理解し、看護師の役割を理解する。 2. 検査・処置を受ける患者への看護技術を習得する。 3. 苦痛緩和・安楽確保のための援助について理解し、その援助技術を習得する。 4. 死の看取りの援助について理解し、その援助技術を理解する。		
回数	教育内容		方法と留意点
1 回	1. 診察、検査の介助 2. 検体検査 1) 検体検査の基礎知識 2) 血液検査 3) 尿検査 4) 便検査 5) 喀痰検査		講義
2 回	3. 生体情報モニタリング 1) 心電図モニター 2) 血管内留置カテーテルモニターを使用したモニタリング		講義
3～4 回	4. 検査・処置の介助 1) X線検査 2) CT 3) MRI 4) 内視鏡検査 5) 超音波検査 6) 心電図検査 7) 肺機能検査 8) 核医学検査 9) 穿刺		講義
5 回	5. 静脈血採血の基礎知識		講義
6～7 回	6. 静脈血採血の実際		演習
8 回	7. 苦痛の緩和・安楽確保の技術 1) 電法の基礎知識 2) リラクゼーションの基礎知識		講義
9 回	8. 電法・リラクゼーションの実際		演習
10～11 回	9. 死の看取りの援助 1) 死にゆく人と周囲の人々へのケア 2) 死後のケア		講義
12～14 回	10. 総合技術 1) 静脈内採血		技術試験
15 回	まとめ／終講試験		
評価方法	筆記試験 60% レポート 40% , 実技 100%		
教科書	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学【3】 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 看護がみえる vol.2 臨床看護技術 メディックメディア		
備考			

自己学習時間

講義以外の学習時間	15 時間	事前・事後学習内容	DVD 学習、技術演習
-----------	-------	-----------	-------------

★この科目は実務経験のある教員による授業科目です

分野	科目	単位	時間	履修年次	テスト時間
専門分野 基礎看護学	46 基礎看護学方法論IX (看護過程)	1	30 時間	2 年 前期	1 (45 分)

科目担当者： 看護師★

学習目標	1. 看護実践における看護過程の意義、目的を理解する。 2. 看護過程の構成要素を理解する。 3. 様々な対象をとらえる過程を理解する。 3. 系統的で意図的な思考過程としての看護の展開方法を理解する。 4. 事例の演習を通して、臨床判断過程を身につける。				
回数	教育内容				講義方法
1 回	1. 看護過程の基本となる考え方 1)看護過程とは何か (1) 看護過程の構成要素 (2) 構成要素の関連性 (3) 看護過程の利点 2) 日常生活の中での看護過程 3) 看護過程の基盤となる考え方 (1) 問題解決過程 (2) クリティカルシンキング (3) 情報分析 (4) 倫理的配慮と価値判断 (5) リフレクション 4) 臨床判断モデル				講義
2 回	2. 対象の捉え方 1) 人が生きる上での「健康と健康障害」 2)対象を捉えるアセスメントの枠組み				講義
3 回	3. 情報源と情報の種類 1) 主観的情報と客観的情報 2) データ収集方法 3) 情報の分類と整理 (1) アセスメントの過程とアセスメントの視点 (2) アセスメントの枠組みに沿った情報				講義 演習
4 回 5 回	4. 情報分析方法 1)情報の分類と整理 2) 情報の意味・解釈 3) 統合				講義 演習
6 回 7 回	5.関連図とは、関連図の役割、種類 書き方				講義 演習
8 回 9 回	6. 看護診断 1)看護診断名 2)関連（リスク）因子 3)症状徴候 7.照合、看護診断の表記				講義 演習

	8. 看護問題と共同問題 9. 優先順位の考え	
10 回 11 回	10. 看護目標と成果 1)看護目標 2)OUTCOME 11. 看護計画立案のプロセス 1) 具体的方法 2) 実施上の留意点（安全、安楽、自立） 3) 倫理的配慮 12. 標準看護計画 13. クリティカルパス	講義 演習
12 回 13 回 14 回	14. 実施 1)実施上の留意点（安全、安楽、自立） 2)倫理的配慮（説明と同意、プライバシー） 15. 評価 1)評価の視点および時期 2)看護計画の修正 3)リフレクション	講義 演習
15 回	まとめ	
評価方法	課題 100%	
教科書	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学【2】 基礎看護技術Ⅰ 医学書院 NANDA -Ⅰ 看護診断 定義と分類 医学書院 看護過程に沿った対症看護 -病態生理と看護のポイント- 学研	
備考	シミュレーション学習を含む 看護診断の改正により教科書の変更があります。	

自己学習時間

講義以外の学習時間	15 時間	事前・事後学習内容	テキストで事前・事後学習を行う
-----------	-------	-----------	-----------------